

もっと知りたい

ふるさと

35

生萱

五台山文殊尊の由縁について

生萱は、沢山川の東部山裾に住宅が点在し、南には田園を懐に抱き、気候温暖で穏やかな地域です。

また、古墳・弥生時代の生仁遺跡（昭和四十五年頃の沢山川改修事業で、多くの住居址や土器などが発掘された）もあり、歴史的に大変古い所です。

◆文殊菩薩との出逢いは夢枕時は戦国時代、元和元年（六一五）大坂夏の陣に真田幸村率いる軍に当村より三名出征しました。

戦に敗れ、五月、大坂より帰郷の途に着いた三名は、現在の大阪市東成郡鳴野村の、とあるお堂で仮眠し一夜を過ごしました。その折、三人の夢枕



文殊菩薩像

に文殊菩薩が現れ「私をこの戦場から遁れさせて信濃へ連れて行って欲しい」とのお告げがありました。三人で相談し、我々がこの戦で命が助かったのも何かのご加護の賜と、菩薩を信濃の故郷へ連れて行く」と意見が一致し、命がけの帰郷の旅が始まりました。

追手に捕り、殺されるのではないかと安眠も出来ず、野越え、山越え、川越え、命からがら菩薩を大切に守りながら、生萱まで無事帰る事が出来、早速村人に一部始終を語りました。

村人は大喜びで、文殊さんのご加護の賜と阿弥陀堂（現長坂地籍）に仮安置して、毎日供養を続けておりました。

年月が経つにつれ、堂の傷みが激しく、場所も思わしくないため、新たに文殊堂の建立を決め、寛政八年（一七九七）現在の埴科縣神社の鳥居をくぐった直ぐ右側の文殊が丘に建立しました。

以来、幾星霜経過し、その間村人の役員が中心となり、毎年法要を続けていました。しかし、途中戦争などの混乱した状況もあり、中断してしまいました。

◆第二の再建の夢枕そんなある日、村の先人の夢枕に文殊菩薩が現れ「このまま風雨に晒されるのは耐えられない」とのお告げがありました。

関係者が急拠相談し、再々建と意見が一致しました。

早速各方面にお願いし、村人はもとより近隣の方々や、趣旨にご賛同頂いた方々に多額のご寄附を頂戴しました。

幸い市有林の檜木材をご心配頂くとともに、地区の匠の方々に献身的なご尽力を頂き、見事な文殊堂が完成し、昭和六十年五月、落慶開眼法要を盛大に執り行いました。

◆新たなスタート

以来、役員により毎月二十五日には月並法会、一月は合

格祈願法会、七月は茅の輪くぐりで保育園児を招待し、読経後参詣して頂きます。また、年末年始は越年祭などの行事を行っており、多くの方々にご参詣頂いております。

日本三大大文殊（安倍・切戸・亀岡）を始め、近隣の文殊堂を参詣する旅を企画し、地区内の多くの方々にご参加して頂き、現在、文殊尊奉賛会として地区内四組より役員総勢一二名で行事の執行をしております。郷土の文化遺産が未来永劫に伝承され、信徒の皆様限りなくご利益を授けて頂きますように祈願するところ です。

生萱文殊尊奉賛会
会長 島田 武久



再々建した文殊堂（昭和 60 年 5 月落慶記念）